

にいかた

# 北から南から



## 今ベトナムの 子どもたちは

長崎 明

ホーチミン市の繁華街を歩いていたとき、  
とんとんと肩を叩かれた。ホーチミンは置き  
引き、万引き、ひったくりが多いから気を付  
けると出立前に聞かされていたので、はっと  
緊張しつつそっと振り向くと、ポロポロの衣  
服をまとった垢まみれのお婆さんが黙ってニュッ  
ト右手を差し出した。左手には痩せこけた赤  
ん坊を抱いている。明らかに物を乞いである。  
さっと頭をめぐらすと、また肩を叩かれた。  
三度、四度と重なるのでつい振り返ったら、  
いきなり赤ん坊のほっぺたをつねるのが目に  
入った。多分お婆さんもそこまで見せるつも  
りはなかったに違いない。火がついたように

泣きじゃくる赤ん坊を目の端に留めながら、  
お婆さんを追い払うのは私にとって勇気のい  
ることであった。

私たちの乗用車がメコン河を渡るフェリー  
を待つて渋滞していたとき、五歳から十歳く  
らいの子どもたちが入れかわり立ちかわり車  
の窓を叩いた。子どもの手には得体も知れぬ  
食物・果物・新聞・宝くじの類が握り締めら  
れている。明らかに朝から同じものを握って  
いたのだろう。車が動くときとさっと散らばり、  
渋滞すると現われた。子どもたちの行く先を  
追うと一軒のみすばらしい店で、そうした品々  
がバラバラと並べられている。子どもを使っ  
ての押し売りもいとところである。子ども  
の中には地雷にでもやられたのか、片足のない  
子がいて思わず目をそむけてしまった。  
二十一年前に訪ねたとき出会った子どもた  
ち、貧しくて痩せこけてはいたが人なつこく  
表情が明るくて未来は僕達のものといった風  
情の子どもたちは、今どこにいつてしまっ  
たのか。



この度の私のベトナム旅行の目的はメコンデルタ開発のための研究調査であったから、当然のことながら滞在期間の大部分を農村部で過ごした。それもドン・ザップ省といって開発後まだ年月が浅い地方であった。そこには稲作・果樹・養鶏・樹木・盆栽など、独自の創意工夫を凝らして成功したモデル農家があつて、それぞれ何々御殿といわれている。聞いてみると、もともと大地主とか資産家とかが多く、労働力の大部分は常雇いもしくは臨時雇いの貧農・チープレイバーに依拠している。機械化・施設化・水利化・化学化・集団化などのいわゆる近代化はかなり遅れているように見える。雇われている人々は家はモデル農家の屋敷内や農林地にバラック風に散在している。

その子どもたちは殆ど学校に行かず、親の仕事を手伝っているようだ。我々が訪れると正に興味津々の表情よろしく、初めは遠くから眺め、次第に近付いてきた。遂には調査ノートを面白げに覗き込む始末だが、その瞳

はランランと輝いていて、二十一年前に見た子どもたちを彷彿とさせていた。

ホーチミンの市街地では朝七時になると、自転車やバイクで登校する生徒の列が通学路に群れをなしている。女生徒の制服は上が白色、下が黒色のアオザイで誠に清楚である。二十一年前に全く目につかなかつたアオザイが、日常の仕事着や制服として使われているのはいささか驚きであつた。確かにドイモイ以後のベトナムは急成長を遂げている。しかし、開きつつある貧富の差が、子どもたちを巻き込んでいるのも事実に見える。

(ながさきあきら・研究所理事長)

